

「ネムノキの観察(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

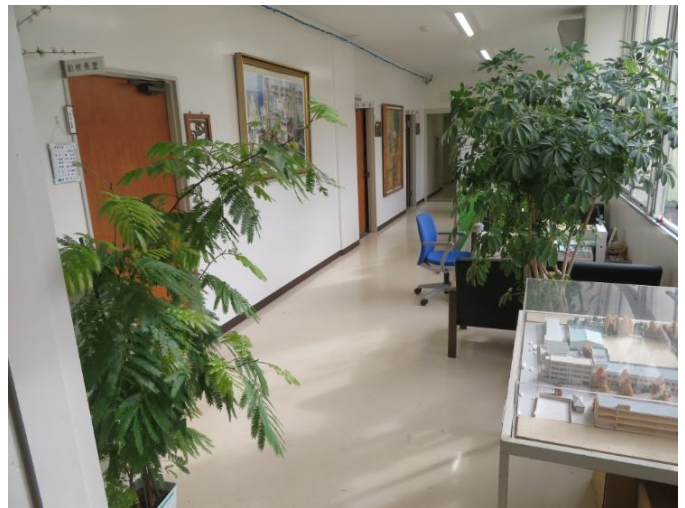
ネムノキはマメ科の落葉高木である。夜になると葉(小葉)が閉じて、オジギソウのように垂れ下がる「就眠運動」をする。葉が眠っているように見えるので、この名がある。小学校の敷地にも結構な大木があつて、毎年薄桃色の美しい花をたくさんつける。



小学校の校長室・応接室の前の廊下には、観葉植物の鉢植えがたくさん置いてある。特に誰が育て始めたというわけでもないが、歴代の副校長がせっせと世話をされていて、枯れたことがない。



この鉢植え植物は、根が凄まじい。恐らく空中に根を伸ばすことで、別の定着地を求め、個体を殖やす「無性生殖」の一種なのだろう。しかしあるのは地面ではなく、教育雑誌ばかりだ。「月間発達」に迫っているが、根はこれ以上「発達」しそうには見えない。



副校長室の前には、結構大きな鉢植え植物もある。右側の植物は、ヤドリフカノキ *Schefflera arboricola* といい、ウコギ科の観葉植物の一種だ。輪生の美しい葉を持ち、これだけ大きなものは珍しい。



コピー機の近くにあるのが「ネムノキ」だ。廊下通行の邪魔に見えるが、不思議と癒される鉢植えだ。



朝通りかかると、葉たちは「起きて」いる。植物の体内に「生体時計」のようなものがあるのか、或いは光に反応するセンサーのようなものがあるのだろう。